

可茂農林事務所の普及活動状況（1月）

今月の重点活動

■ 農業担い手リーダー、農業高校生 井戸「畑」会議の開催

12月24日、農業の現場を学ぶ出前講座事業を活用して、指導農業士等の農業担い手リーダーと加茂農林高等学校生徒との交流を行う『井戸「畑」会議』が開催され、就農に関心のある高校生14名が参加しました。

担い手リーダー、高校生ともに3～4名ずつのグループに分かれ、積極的な意見交換が行われました。高校生は自身の就農への夢を語り、また、担い手リーダーへ農業経営で大切なこと等の様々な質問をしました。担い手リーダーは自身の経営の話や就農に至るまでの体験談など、質問に応えながら様々なアドバイスを行っていました。

今後も、農業担い手リーダーの活動を支援するとともに、農業高校生へ就農への関心を高める取り組みを継続していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子、加藤瑞穂）



【井戸畑会議の様子】

売れるブランドづくり

■ 水稲（可児地域） 次年度栽培に向けて

可児地域では、令和3年産より主力品種「あさひの夢」から「ほしじるし」への品種変更を予定しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、農家を集めた研修会の開催を控えて、1月にJAめぐみの水田農業担い手協議会可児支部会員に対し、令和2年産水稲の振り返りと対策、「ほしじるし」実証結果や栽培暦案などについて、全農岐阜及びJAめぐみと連携して資料配布を行いました。

また、御嵩町の農家に対しては、12～1月にJAめぐみと連携して個別訪問を行い、今年度の生育調査や試験結果を報告し、個別に防除体系や施肥体系の見直しを提案しました。

今年度の「ほしじるし」実証ほでは目標単収600kg/10aを達成できておらず、次年度も地域に適した栽培技術を確認するための実証ほを設置する予定です。また、多くの生産者は、初めて「ほしじるし」の栽培に取り組むこととなるため、改めて現地研修会の開催を計画しています。

（地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂）



【「ほしじるし」実証ほ】

■ 堂上蜂屋柿 品評会を開催

美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会では、堂上蜂屋柿の品評会を1月14日に開催し、生産者から45点の出品がありました。美濃加茂市長、美濃加茂市議会議長、JAめぐみの組合長、美濃加茂市観光協会長、可茂農林事務所長等が、出品された堂上蜂屋柿を審査しました。今年は天候の影響で小振りの柿が多くなりましたが、最優秀である県知事賞受賞品など優秀な作品については、色・形・粉のふき具合等素晴らしい出来栄でした。

審査後には、出席した関係機関で意見交換会が行われ、各機関から、堂上蜂屋柿の生産拡大及び販売方法の多様化を推進していく方策について様々な意見が出されました。

（園芸産地支援係・宮田洋輔）



【慎重に審査を実施】

■ いちご **ハウス内環境をモニタリングした環境管理指導**

可茂管内の高設いちご栽培では、光合成促進装置（CO₂発生装置）等を導入して、タイマーで毎日決まった時間に稼働させています。そこで、ハウス内温度や天気に合わせてCO₂濃度管理を行うことができるよう、いちごの株内に温度・湿度・CO₂を測定・記録できる装置を可茂農林事務所がモデル的に設置しました。定期的な記録データのグラフを作り、温湿度やCO₂管理状況を「見える化」して、生産者と問題点を共有しています。目標値と実際との差が明らかになり、換気方法の改善や光合成促進装置の効率的利用につながっています。今後は、日射も測れる環境モニタリング装置の導入を図り、一層の収量や品質の向上を目指していきます。



【株の内部に設置した機器】

（園芸産地支援係・熊澤良介）

■ 茶 **白川町の茶生産組合がJGAP認証を取得**

白川町の黒川茶生産組合は12月にJGAP審査機関による初回の審査を受け、一部の項目で課題が見られたため、可茂農林事務所とJAめぐみので助言を行ってきました。組合は適合基準にあうよう是正を行い、1月9日にJGAP認証を取得することができました。



【審査の様子】

当組合は、令和元年度から認証取得を目指し、組合員2名がGAP指導員と内部監査員の資格を取得して積極的に準備を進めてきました。団体事務局の責任者からは「様々な書類の整備や、団体と茶園管理組織と組合員の役割分担の明確化が特に大変だったが、組合内で衛生管理の意識が高まってよかった。今後JGAPの運用をより効率的に行えるように改善を行いたい。」と意欲的な意見を伺うことができ、可茂農林事務所は今後も更なる改善に向け助言を行っていきます。

（園芸産地支援係・広瀬貴士）